

平成 28 年第 22 回 札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成28年第22回教育委員会会議

1 日 時 平成28年10月 5 日（水） 14時45分～16時15分

2 場 所 S T V 北 2 条ビル 4 階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長 岡	豊 彦
委 員	山 中	善 夫
委 員	池 田	光 司
委 員	池 田	官 司
委 員	阿 部	夕 子
委 員	佐 藤	淳
教育次長	大 友	裕 之
生涯学習部長	山 根	直 樹
学校教育部長	引 地	秀 美
教育課程担当課長	長谷川	正 人
義務教育担当係長	伊 達	峰 史
義務教育担当係長	船 着	千 世
義務教育担当係長	末 原	久 史
義務教育担当係長	三 浦	敦 司
義務教育担当係長	高 橋	健 一
指導主事	牧 野	宜 英
指導主事	阿 部	晋 也
教職員担当部長	檜 田	英 樹
教職員人事担当課長	早 川	修 司
人事係長	新 見	琢 磨
人事係員	城	彰 浩
総務課長	竹 村	真 一
庶務係長	國 方	大 翼
書 記	吉 田	望

4 傍聴者 5 名

5 議 題

議案第 1 号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果における札幌市の調

査結果の公表に係る数値の取扱いについて

議案第 2 号 人事について（平成29年度札幌市公立学校教員採用候補者選
考検査の登録者決定について）

【開 会】

○長岡教育長 これより、平成28年第22回教育委員会会議を開会します。

本日の会議録の署名は、池田光司委員と佐藤淳委員にお願いいたします。

本日の議案第2号は、人事に関する事項であります。教育委員会会議規則第14条第1項第2号の規定により、公開しないこととしたいと存じますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、議案第2号は公開しないことといたします。

【議 事】

◎議案第 1 号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果における札幌市の調査結果の公表に係る数値の取扱いについて

○長岡教育長 それでは、議事に入ります。議案第 1 号について、事務局から説明をお願いいたします。

○学校教育部長 今年、4月19日に実施されました平成28年度全国学力・学習状況調査結果に係る札幌市の対応方針につきましては、平成28年8月30日開催の第19回教育委員会会議においてご審議いただきました。

資料、別添の議案第 2 号の 1 をご覧ください。

最後の段落にありますように、「数値の公表については、細かい桁における微小な差異が、実質的な違いを示すものではないこと、また、そのことから今回新たに文部科学省が、各都道府県の平均正答率について小数点以下を四捨五入した整数値で示すこととしたことを踏まえ、札幌市においても同様に、小数点以下を四捨五入した整数値で示す。」と決定したところではありますが、文部科学省による本調査の結果公表後の状況を踏まえ、札幌市の調査結果の公表に係る数値の取扱いについて、再度、お諮りするものであります。

まず、経過についてご説明いたします。

資料 1 をご覧ください。この資料は、文部科学省が本調査の公表資料の作成のポイント・留意点について示しているものです。資料の下の方になりますが、都道府県別の平均正答率という項目をご覧ください。

「都道府県別の平均正答率について、小数第 1 位の数値を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられる」こと。また、「細かい桁における微小な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないと考えられることから、都道府県別の平均正答率は整数値で公表」とあります。

また、その下の各都道府県教育委員会等に対する公表に当たっての配慮事項、配慮依頼という項目をご覧ください。「各都道府県教育委員会及び各指定都市教育委員会に対し、結果の分析・公表に当たって、同様の配慮を行うよう、依頼」とあります。

今、読み上げました意見につきましては、今回、新たに文部科学省が示した方針となります。

札幌市といたしましては、以上のことを踏まえ、8月30日を教育委員会会議でご審議をいただき、札幌市全体の平均正答率の数値については、小数点以下を四捨五入した整数値で公表すると決定したところではありますが、札幌市の調査結果の公表に係る数値の取扱いについては、議案第 1 号のとおり、再度、提

案させていただきたいと思います。

それでは、議案第1号の1、札幌市の調査結果の公表に係る数値の取扱いをご覧ください。

文部科学省による9月29日の結果の公表においては、都道府県別の平均正答率の一覧を整数値で公表しているものの、都道府県ごとの調査結果概要については小数点以下も公表しております。

資料2をご覧ください。こちらが、整数値で公表されている都道府県別の平均正答率の一覧となります。各教科の正答率の欄に平均正答率が整数値で示しているのがお分かりになるかと思います。

次に、資料3をご覧ください。これは、既に国立教育政策研究所のホームページに掲載されております北海道の小学校の国語の調査結果の概要になりますが、資料の左上及び中央左の平均正答率の欄にあるとおり、平均正答率是小数第1位まで示されており、同様に、他の教科の都府県についても小数点以下が公表されております。

議案第1号の1に戻りますが、その結果として、新聞等において、都道府県別の平均正答率が、小数第1位まで報道されました。また、道教委においても、平均正答率を小数第1位まで公表しております。

そのような中、札幌市といたしましては、数値の細かな差のみに着目するのではなく、全体の傾向を大きく捉えたり、無回答率や誤答率も含めて、成果と課題を丁寧に捉えたりすることが必要という考えに変更はございませんが、札幌市の平均正答率を整数値で示すことは、保護者や市民に結果を曖昧にしているという印象や誤解を招くおそれもあることから、札幌市の平均正答率を小数第1位まで示すことと変更したいと考えております。以上、平成28年度全国学力・学習状況調査結果における札幌市の調査結果の公表に係る数値の取り扱いについて、ご審議のほどをよろしくお願いいたします。

○長岡教育長 ありがとうございました。議案第1号についての説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

○佐藤委員 修正のご提案については、やむを得ないと思います。ただ、資料1の一番最下段にありましたように、文部科学省から指定都市を含めて、結果の分析・公表に当たって同様の配慮を行うよう依頼と書いてあるので、ここへの対応をどうお考えになるかということと、札幌市以外の指定都市ではどういうふうにされているのかということをお調べであれば、お聞かせいただければと思います。

○**学校教育部長** 資料１の都道府県別の平均正答率の公表に当たっての配慮事項の捉え方ではありますが、私たちといたしましては、文部科学省が示しているとおり、「序列化、過度な競争を助長する要因として考えられる」という部分で、文部科学省と同様に、その細かい差異まで出さなくてもよいという判断をいたしました。しかし、ここの「指定都市に対し、同様の配慮を行うよう依頼」という部分については、もう少しきちんと確認しておけばよかったと反省しているところです。

資料２をご覧くださいとお分かりかと思いますが、ここの平均正答率が整数値で表されていることについては、小数第１位まで出すと、さらに細かく序列化されるという恐れがあるので、文部科学省としては、ここは整数値でという判断になったと考えております。

しかし、次の資料３において、小数第１位まで示されていることについては、各都道府県政令市で、その域内での詳細な分析のためには、この細かい数値を生かすということもよろしいという意味合いでの文部科学省の公表であったと捉えております。

したがって、私どもとしましては、昨年度から小数第１位までの平均正答率の数値公表に踏み切ったわけではありますが、特に大きな問題等もありませんでしたので、この域内の分析という意味では、丁寧に結果を公表するという説明責任の観点から、今回も、小数第１位まで公表することに変更したいと考えたところです。

○**佐藤委員** すなわち、同様の配慮ということは、整数値で公表ということを目指しているのではなく、その上の部分の過度な競争を助長するようなことは避けるという配慮にとどまるので、文科省からの依頼については、小数点以下を公表しても問題はないという解釈でよろしいわけですね。

○**学校教育部長** はい、そのとおりです。

○**長岡教育長** 他の政令市の状況はいかがですか。調べておりますか。

○**教育課程担当課長** 20政令市のうち、熊本市につきましては、今年度地震がありましたので、学力テストを実施しておりません。19政令指定都市のうち、相模原市と名古屋市については、前年度同様、数値については公表しない方針を示しております。

札幌市を除く、残りの16政令指定都市のうち6市については、整数値による公表をすると伺っております。うち、3市については、既に整数によりホーム

ページ上等で公表されているということでありました。

○長岡教育長　ということは、10市は小数第1位まで公表ということによろしいですか。

○教育課程担当課長　政令市10市は、小数第1位までを示して公表する予定だと伺っております。

○長岡教育長　ありがとうございます。佐藤委員、よろしいでしょうか。

○佐藤委員　ありがとうございました。

○池田（官）委員　資料3についてですが、このような形によりサイト上で公開されているとご説明いただきました。

この北海道の情報と札幌市の結果の関係ですが、札幌市の結果はこの中に含まれていると考えてよろしいでしょうか。

○学校教育部長　はい。札幌市の状況も北海道の中に含まれております。

○池田（官）委員　そうすると、政令市としての札幌市だけの情報、数値というのは、現時点で公表されていないという理解でよろしいでしょうか。

○教育課程担当課長　文部科学省は、都道府県別の公表しかしておりませんので、札幌市を含んだ北海道、都道府県別の公表となっております。

○池田（光）委員　わかりました。

○山中委員　先ほどの佐藤委員の質問との関係で、同様の配慮を行うように依頼という意味合いとして、整数でなくて、小数第1位まで公表してもよいのだという趣旨で、専ら分析、公表に当たって数値データを序列化、過度な競争を助長させることが主たる関心事とならないようにしさえすればよいのだという趣旨に解釈して構わないというお話であったように思います。それは、文部科学省に問い合わせをしてそういう確認をしたという意味ですか。

今の佐藤委員の確認からすると、札幌市教育委員会としてそう解釈したという趣旨に聞こえるのですが、どうなのですか。

○**教育課程担当課長** 結果の公表は文部科学省に、この資料の取り扱い、判断について、どのように捉えたらよいのかということで、改めて確認をさせていただきましたが、文部科学省としては、ここの結果の分析・公表に当たって、同様の配慮を行うようというところは、同じく小数点以下を四捨五入した整数値で公表を必ずしてほしいということではなく、序列化や過度な競争を助長する要因となるような部分について配慮をしてほしいということです。

ただし、文部科学省がマスコミにその結果を公表した際には、都道府県の一覧を示して、小数点以下のものは小さなことなので、今年から文部科学省では整数値で公表としたこと、マスコミ各社もこちらのデータを主として使用してほしいということは、文部科学省としても伝えたというふうに伺っております。

○**山中委員** 報道関係者は、当然、小数点までを明らかにして公表するだろうという予測が可能なわけですが、文部科学省はどのように考えていたということなのでしょうか。

○**教育課程担当課長** 文部科学省は、一覧として並べたときのものは整数値で公表することで過度な競争を行わないように配慮したというお話を伺っておりますが、私たちとしては、同様に、都道府県別のものが小数点以下で出れば、それを並べ変えることは非常に容易なことです。マスコミは、このように取り上げたのだと感じております。

○**山中委員** 文部科学省は、自分たちはこういった配慮をしている、整数値にするということで、その点数が主たる関心事にならないように、過度な競争をあおらないように配慮しているという形式的な姿勢を見せながら、実は、小数点以下まで公表する方向でやろうと、何か体裁を繕っているように見えかねないと感じるのです。

文部科学省が記者会見をしたときに、記者がどこまで突っ込んだか知りませんが、それはそれとして、そういう裏話というか、表面的にどうだということと実際にこうだということを踏まえながら、札幌市教育委員会としてどうするかというときに、うちは整数しか発表しませんということは、理屈上は可能なですね。しかし、その方法はとりたくないということですね。もう一度お聞きしますが、その主たる理由は何ですか。

○**学校教育部長** まず、前段の部分のお答えをさせていただきたいと思います。文部科学省のほうでは、この4月に通知が出ております。それは、全国学力・学習状況調査を受ける際に、過去問題に終始している学校現場の様子が文部科

学省に入って、それは、本来の目的ではないということで、過去問題、テスト対策をしないようにということです。

その一環で、順位づけが全国学力・学習状況調査で行われるべきものではないということの一つの手だてとして、今回、資料2にあるような形で整数値のものが出されたと私たちは考えております。

一方で、小数第1位まで出るということは、その域内、札幌市なら札幌市内、道内なら道内の細かい数値によって、全国平均との差が過去から比べてどのぐらい向上してきたのか、近づいたのか、改善されてきたのかということをはかる意味では、数値としては非常に小さい部分ではありますが、その部分での詳細な分析に役立てることで、域内の各都道府県の小数点は出たというふうに私たちは解釈しております。

また、一番の理由は、私たちは整数値で示すことは、序列化を生まないという判断に至ったわけですが、道や先ほどの政令市等々で、文部科学省では小数第1位まで出していることを鑑み、あくまでも札幌市の数値をわかりやすく公表したいということや、私たちのほうでも、その数値をもとにさらに改善策はないか探っていくという意味合い、また、市民にも、なぜ出さないのだ、去年と違って整数値を大きく広げてぼやかしているのだろうという誤解等を招かないようにという配慮からも、今回は、小数第1位のほうに切りかえてご提案させていただきました。

○山中委員 整数値で発表することによって、70.5も71.4も同じ71だということになり、例えば、この71が5県あったとすると、同レベルだと出ているものが小数点以下を発表すれば、その中で順位づけが簡単にできる、そういう意味で序列化になるということですね。

私も、小数点以下を発表することは問題があるというのはわかるのですが、他方、0.9の差が全部まとめられてしまうということも問題はあるという気はするのです。

また、文部科学省の言い方からすると、どちらでもよいということになってしまっているのですが、それでいて文部科学省は、域内分析とか何とかおっしゃって、その中での分析が可能なように、域内は小数点以下を発表するのだとおっしゃるようですが、それは域内の各自治体に個別に通知すれば、そして、域内の各自治体に、その域内の通知はこうです、ただ、この使い方は十分注意してください、勝手に他の自治体の分を同意もなしに発表するようなことはしないでくださいという対応もできるわけです。そういう意味で、域内分析のために必要だというのは一つの理由でしょうけれども、対策はできると思うのです。

そのようなことで、正直に言いまして、この扱いについては、どちらでなけ

ればいけないという気はしないのですが、いかにも小数点以下はなるべく出さないようにと言いながら、実は出してしまうというやり方は、本来の全国学力・学習状況調査の在り方からいって非常に疑問を感じるところはあって、それに乗っかって文部科学省と同じようにするのも何となく割り切れないという気持ちはいいたします。

ただ、最終的に現場サイドのお考えで、こういう方向でやろうというなら、それはそれでもよいと思っておりますが、これが毎年のように変わるというのは非常に困ります。

もう一つは、文部科学省は、方針変更をしたとか、考え方に整合性がないということは絶対に認めないと思いますが、整数でやるということを言いながら、他方において、こういう小数点以下のものを発表するというような対応については、都道府県の教育関係の全体的関係者あるいは政令指定都市の関係者等で申入れをしておく必要があるのではないかとということをつけ加えて、私の意見とします。

○**学校教育部長** 他政令市と情報共有しながら、文部科学省のほうに、現状といますか、私たちの考えを含めましてお伝えする機会がありますので、しっかりお伝えしたいと思います。

○**山中委員** よろしくをお願いします。

○**池田（光）委員** 確認ですけれども、小数点以下を表現することは、具体的にどのような影響があるのでしょうか。

ランクづけのことはわかりましたけれども、その数値が出れば出るほど、生徒数の整合性、0.1パーセント増えると、何人の方が正答だったか、正答ではなかったかというのは、そのように導き出した数字なののでしょうか。

数字を小数点以下で表現したときに、教育的観点からということも含めて、どのような意味合いがあるのでしょうか。

○**学校教育部長** 私たちは、プラスマイナス3ポイントで、全国平均とほぼ同程度と捉えております。

ただ、文部科学省のほうは、プラスマイナス5ポイントでほぼ同程度とみなしているのですが、そこを小数点以下であらわすということは、先ほども申し上げましたけれども、国語の漢字で、毎年を経年変化は追えないのですけれども、全国平均と比べて近づいているかどうかということです。今回、北海道は全国平均にかなり近づいています。それは何をもって判断しているかという、

小数点以下の数値をもって改善しているという部分で、改善策の検証に生かしているところがあります。

○教育課程担当課長 資料2をご覧ください。例えば、一番左の国語のAですがけれども、これは、問題数が15問ありますが、北海道は15問のうち10.7問正答していることになります。それから、その下の二つの宮城県が10.8問ということで、正答数は0.1変わると、整数値で71という正答率が72%ですので、ここですと1%の誤差は正答数で言うと0.1問分ということで、非常に小さな数値になります。

○池田（光）委員 人数ではなくて、0.1問なのですね。

○教育課程担当課長 ほかの問題数等によって若干変わりますが、1問合っているか、合っていないかではなくても、小数点以下の正答数によって、その1桁目が若干変わってきます。

○長岡教育長 当初出た通知の資料1に基づいて、その趣旨に鑑みて、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられるので、そういう微小な実質的な違いについて考慮した結果、整数でという一旦の通知があったということです。

結果として、今般、小数第1位までのものが出て、札幌市教育委員会としては、山中委員からもご発言がありましたけれども、議案1の2枚目に書いているように、今般は小数第1位まで出たということで、市民に対して結果を曖昧にしているという誤解を招くおそれがあって、そうしないために、結果、小数第1位まで出たものを、追認と言うとおかしいのですけれども、それを公表するというので、一旦、以前の教育委員会会議で決めたものを今回改めるという趣旨です。

ただ、今年度は、委員の皆さんからだめだという異論はありませんので、この議案については今お諮りしますが、次年度以降、そこは文部科学省にもしっかり確認した上で取扱いを決めていただきたいと思います。これは、委員のどなたもそう思っていると思いますので、そこは十分配慮した上で、来年以降の取扱いの手続を決めていただければと思います。

議案第1号については議案どおりでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、議案第1号については提案どおり、決定いたします。
議案第2号からは公開しないことといたしますので、傍聴の方がいらっしゃいましたら退席をお願いいたします。

〔傍聴者は退席〕

以下 非公開
